

原子力発電所特別委員会
産業振興対策分科会会議録

1 招集 昭和 44 年 11 月 15 日午前 10 時

1 場所 第 1 委員会室

1 出席委員 主査 吉田勝治君
副主査 阿部公一君
与口登美夫君 小谷正太郎君
中村徳雄君 服部喜三郎君 以上 6 人

1 欠席委員 川又信応君 坂井友治君 以上 2 人

1 特別出席 副議長 竹内吉三郎君
委員長 柴野寅平君
副委員長 飯塚 正君

1 説明員 商工観光課長 村山義雄君
農林水産課長 橋爪和夫君

1 事務局職員 主事 小越哲雄君

1 事件 分科会の運営について

1 署名委員 与口登美夫君 服部喜三郎君

1 開議 午前 10 時 20 分

1 経過概要

吉 田 主 査 今日当分科会の今後の運営についてご協議願いたい、どういうことを、どのようにやってゆくかということである。

小 谷 委 員 温排水の活用ということが 1 つあげられているが、そのほかに既存産業にどういう影響があるか、それに対してどう対処してゆくか、という問題もある。プラス面、マイナス面、いろいろあると思う。

与 口 委 員 原発設置ということから、柏崎というものが広く産業人、工業人に印象づけられていると思う。相当に宣伝される。企業進出に目をつけられるのではないか、そういうものを受入れる研究とか PR も必要と思う。

その次に、既存産業に与える影響である。マイナス面は、できるだけ排除しなければならない。万博工事の人夫賃は 1 日 6, 0 0 0

円だという。原発建設の場合も4,000円ぐらいになるのではないか。賃金の面からの影響。地元産業、特に鉄工界が打撃を受けないかどうか。

3番目に、温排水なりあるいは余剰電力があるならば、これをどういう形で利用できるかという問題がある。それから、東電が柏崎に進出するに際して、東電が地域のためにどの程度手助けする意思があるかどうか。以上の4点くらいになると思う。

竹内副議長 大メーカーはわからないが、確かに小中メーカーは進出してくるかもわからない。既存企業との競合という問題も出てくる。

阿部委員 産業振興というのは中が広い。中小企業に関係する仕事をどういうふうに持ってゆくか、あるいは温排水、また農業面とか、観光面、いろいろある。当局の考えも聞きたい。

柴野委員長 与口委員の意見は①工場誘致、②既存工場の育成、③温排水の利用、の3つくらいにしぼられると思う。当局においては、これらについて商工と農林が担当している。

村山課長 私のほうの関係では、工業界にどういう影響を与えるか。原発の建設段階で既存工場に関連の仕事が出てくるか、どうか、という問題が1つある。

こういうことについては先般、会議所の幹部の方々が東電と話し合いをされた。

それによると、いままでの大熊、敦賀では地元でたいした工業力がなかった。それで、町の工業界には、たいしてお願いしなかった。しかし、地元でできるものがあれば、やってほしいと思っている。とりあえず考えられることは溶接、配管等の仕事である。

柏崎の工業力を調査して、できるものは柏崎でやるようにしたい。こういう東電側の話であった。原発ができることによって、どういう企業の進出が予想されるかということについては、目安がつかない。

賃金の問題であるが、建設に必要な労務者は2～3千人と思う。これに対して地元から1千人くらいの雇用が必要になろうという話があった。これは賃金問題ではないが、雇用についてそういう話があった。観光面としては、相当数の来訪者が予想される。旅館や商店がうるおうという見方がある。それから、蒸気を利用した植物園、熱帯魚というようなことも考えられると思うが、具体的なものでは

ない。

橋爪課長 私のほうでは、まだ、どう言ってもいいかわからないという心境であるが、いままでの調査研究の範囲において申し上げる。

近時、水産においても、農業においても、これまでの天然の力によって生産をあげるという行き方から、人工的な布石をして、さらに生産をあげるという行き方に、だんだん変わってきている。そういう観点から今後の方向を考えたときに、やはり、電力を何とか利用できないか、これを何とか利用していくべきだと考えている。それで、1つの目標にしていることは、財団法人・中央電力研究所というものがある。その1部内に農電研究所というものがある。これをぜひ柏崎に持ってきてほしい。これは実現の見通しはあると思っている。それから、温排水の利用ということは、まだ試験研究の段階であるが、これについても考えていかなければならないと思っている。

与口委員 3千人の人夫が必要で、地元から1千人ということであるが、それだけの労働者が地元にあるのか。現在、中小企業の手人は充足されているかどうか。

村山課長 把握していないが、足りないと思う。

与口委員 柏崎における余剰労働力、ここは重要な問題である。それから蒸気の利用と言われたが、そういうものが考えられるのか。賃金問題についてはどうか。

村山課長 温排水のことである。賃金問題については、これから具体的に調査してゆく。

小谷委員 大きな問題は、建設途中における地元産業界との競合だ。消費物質調達もある。

飯塚副委員長 各層の人たちとの懇談も必要になろう。

竹内副議長 着手するまで、着手したあと、できたあと、の3段階くらいに分けて考えたらどうか。

与口委員 ①賃金面からの影響ということが当産の研究問題だと思う。

②工場誘致については、原発ができるというムードに合わせてのPRが必要と思う。

③かなり人手が入ってくるわけであるが、消費物質の調達について地元も協力できるようにやってもらうこと。

④農電研究所、これは観光にも結びつく。この、誘致運動も必要と思う。

小 谷 委 員 大体、そんなところだ。

柴 野 委 員 長 漁業に及ぼす影響はどうか。補償という問題も出てくると思うが。

与 口 委 員 それも、この分科会に入るのか。

柴 野 委 員 長 とらえる角度によって、監視体制や環境整備にも関係してくるが、ここでも一応、取り上げてもらわなければならないと思う。漁業に与える影響もないとは言えない。

与 口 委 員 補償額の当否までは触れられないだろう。そこまで行くと、政治折衝だ。

飯塚副委員長 魚がどうなるか、逆に、ふえるという見方もある。そこらあたりまでは取り上げる必要があると思う。

吉 田 主 査 いろいろ意見が出たが、先進地の視察も必要だ。そういう点は、具体的には今後またお願いしたい。

今日はこれで散会する。

1 散会 午後 0 時 2 分

議会委員会条例第 2 3 条第 1 項の規定に準じここに署名する。

原子力発電所特別委員会産業振興対策分科会

主査 吉田勝治

署名委員 与口登美夫

署名委員 服部喜三郎